

6つの特別賞同時受賞、アジア人史上初、審査員満場一致…

フランツ・リスト国際コンクールでの圧倒的優勝から10年 真の実力派として各方面から絶賛を受ける阪田知樹が 満を持して挑む、横浜だけの特別プログラム

崇高なまでの探求心に支えられた知性、底なしの好奇心によって形成された見識の深さ、途方もない研鑽によって磨き抜かれた音色、そのすべてを音楽に捧げ、偉大な作曲者たちが作品に込めた思いやドラマを丁寧に紡ぎ出す。それは必然のものとしての説得力に溢れ、同時に新しい発見の喜びを聴き手に与える—阪田知樹の奏でる音楽は、いつも我々の想像を超えてくる。

その若き至宝が「天使が弾いているようだ!」と絶賛を受け圧倒的優勝を飾ったフランツ・リスト国際ピアノコンクールから10年の節目を迎え、今回だけの特別プログラムを携えて横浜に登場する。メインに据えたのは満を持しての超絶技巧練習曲全12曲だ。名前からし



©Naniko Kitaura

て異彩を放つこの作品を阪田がどのように表現するか、想像しただけでも胸が高鳴る。そしてカップリングと呼ぶにはあまりに贅沢なラフマニノフの超名曲&大曲が前半に用意されているのも注目だ。それぞれが偉大な作曲家でありピアノのヴィルトゥオーゾでもあったラフマニノフ&リストを、自身も作曲を手掛ける現代のヴィルトゥオーゾが弾く—阪田だからこそ意味のあるプログラミングである。

自身のデビュー15周年である今年度に組まれたこの特別な公演。これからの長きにわたり日本音楽界を牽引していくであろう阪田知樹の現在をじっくりと聴きたい。

阪田 知樹 Tomoki Sakata

2016年フランツ・リスト国際ピアノコンクール(ハンガリー・ブダペスト)第1位、6つの特別賞。コンクール史上、アジア人男性ピアニスト初優勝の快挙。「天使が弾いているようだ!」—Leslie Howard—と審査員満場一致、圧倒的優勝を飾る。

2021年世界三大音楽コンクールの一つ、エリザベート王妃国際音楽コンクールピアノ部門にて「多彩な音色をもつ、知性派ヴィルトゥオーゾ」—Standaard—と称えられ第4位。

第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにて弱冠19歳で最年少入賞。「清澄なタッチ、優美な語り口の完全無欠な演奏」—Cincinnati Enquirer—と注目を集める。

イヴァン・モラヴェッツ氏より高く評価されイヴァン・モラヴェッツ賞、ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、聴衆賞等5つの特別賞、クリエヴァンド国際ピアノコンクールにてモーツァルト演奏における特別賞、キッシンゲン国際ピアノオリンピックではベートーヴェンの演奏を評価され、日本人初となる第1位及び聴衆賞。

極めて広範なレパートリーを持ち、演奏したピアノ協奏曲は50曲を超える。2023年にはラフマニノフ生誕150年と没後80年を記念して、ピアノ協奏曲全5曲を一日で演奏。満席のサントリーホールが総立ちとなる大成功をおさめる。2023年と2024年の2度にわたってリストのピアノ協奏曲4曲を一夜で演奏したほか、2025年にはブラームスのピアノ協奏曲2曲を一夜で演奏。

シャルル・デュトワ、レナード・スラットキン、アレクサンドル・ラザレフ、シルヴァン・カンブルラン、ヤン・バスカル・トルトゥリエ、ヴァディーミル・ヴァーレック、アンドレア・パッティストーニ、ヤーン・シュ・コヴァーチュ、サッシャ・ゲツツェル、スタニスラフ・コチャノフスキー、秋山和慶、井上道義、尾高忠明、大植英次、広上淳一、大野和土、他諸氏の下、シュターツカペレ・ハレ、ソフィア・フィルハーモニー管弦楽団、チェコ国立交響楽団、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、ベルギー国立管弦楽団、フォートワース交響楽団、NHK交響楽団、東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団他と共演。東京クワレット、プレントナー弦楽四重奏団、マルタ・アルゲリッチ、諏訪内晶子の各氏との共演など室内楽奏者としても活躍。

国内はもとより、世界各地20カ国以上で演奏を重ね、音楽祭への出演多数。クレムリン国際音楽祭では、オール・リスト・プログラムによるリサイタルをニコライ・ペトロフ氏が「世界一のリスト」と絶賛。クライバーン・ショパン・フェスティバルでのオー

ル・ショパン・プログラムによるリサイタルは、「ヴィルトゥオーゾ的、天性の叙情性、ピアノに對峙する真摯な姿が聴衆を感動の渦に巻き込んだ!」—Fort Worth Star-Telegram—と高評を得た。2018年には、ドイツの名門ライプツィヒ・ゲヴァントハウスにてリサイタルデビューを果たす。

2022年には、神奈川フィルハーモニー管弦楽団とのピアノ協奏曲弾き振り、及びリストの管弦楽作品日本初演の指揮を行い、指揮者デビュー。

2024年にはフランスを代表する現代音楽作曲家:フィリップ・マヌリ作曲ピアノ・ソナタ第2番《変容》を作曲家立ち合いの下、演奏。マヌリ氏より高い評価を受け、賞賛された。

作曲家としても精力的な活動を展開しており、神奈川フィルハーモニー管弦楽団より委嘱を受けて作曲した《管弦楽のための〈肖像〉》(全音楽譜出版社)が、神奈川フィルハーモニー管弦楽団「音楽堂シリーズ第31回」(於:神奈川県立音楽堂)にて初演、横浜アーツフェスティバル実行委員会より委嘱を受けて作編曲した《日本童謡メドレー》が、横浜音祭り2019オープニングコンサート(於:横浜みなとみらい大ホール)にて横浜少年少女合唱団と清水和音氏のピアノにより初演されている。2026年には、神奈川フィルハーモニー管弦楽団からの委嘱新作と群馬交響楽団からの委嘱新作、2曲の管弦楽作品の初演が予定されている。

阪田知樹ピアノ編曲集『ヴォカリーズ』、『夢のあとに』、阪田知樹作曲『アルト・サクソフォンとピアノのためのソナチネ』を音楽之友社より出版。

2025年6月に公開された短編映画『リメイク』(監督:大賀英資)では、劇伴音楽の作曲・演奏を担当した。

2015年CDデビュー、2020年3月、世界初録音を含む意欲的な編曲作品アルバムをリリース。国内外でのテレビ・ラジオ等メディア出演も多い。

東京芸術大学音楽学部附属音楽高等学校、及び同大学を経て、ハノーファー音楽演劇大学にて学士、修士、同大学院ソリスト課程を最優秀の成績で修了。世界的ピアニストを輩出し続ける「コモ湖国際ピアノアカデミー」の最年少生徒として認められ、イタリアでドミトリー・パシキーロフ、レオン・フライシャー、アンドラーシュ・シフの各氏の下で研鑽を積む。パウル・バドゥーラ=スコダ氏に10年に亘り師事。作曲を永富正之、松本日之春の各氏に師事。

第66回横浜文化賞文化芸術奨励賞、第32回出光音楽賞、第72回神奈川文化賞未来賞、第27回ホテルオークラ音楽賞、第38回ミュージック・ペンクラブ音楽賞を受賞。